

日本産科婦人科学会着床前染色体異数性診断 (PGT-A) 多施設共同臨床研究への参加が承認されました

日本産科婦人科学会より、令和元年12月26日付けにて着床前染色体異数性診断 (PGT-A) 多施設共同臨床研究への参加が承認されました。

PGT-Aとは受精卵の染色体の数の異常がないかを調べる検査です。採卵して得られた卵子に体外受精(顕微授精)を行い採卵5~6日目まで発育した胚盤胞の外側の細胞を5~6個採取し、PGT-A解析施設に提出します。検査施設では、この細胞からDNAを増殖させて、適切な方法で染色体の数の異常を調べます。生検をした胚盤胞は一旦凍結保存します。検査の結果、移植可能と診断された胚を選び融解して子宮内に移植します。

PGT-Aをおこない、染色体の数が正常な胚を子宮に戻すことができれば、染色体の数の異常による流産を避けられると期待されています。

ご希望いただいても、必ずしも臨床研究に参加できるとは限りません。学会が提示した条件に該当する方のみ臨床研究に参加可能です。

適応基準

- 1 反復不成功: 直近の胚移植で2回以上連続して臨床妊娠が成立していない。
- 2 習慣流産(反復流産): 直近の妊娠で臨床的流産を2回以上反復し、流産時の臨床情報が得られている。
- 3 染色体構造異常: 夫婦いずれかが染色体構造異常(相互転座)を持つ。

※ 参加を希望される方は、電話予約の上、一度受診していただき、医師にご相談ください。対象と判断されれば、遺伝カウンセリングを受けていただいた上、治療内容についての詳細を説明させていただきます。